

令和6年度 学校評価（保護者アンケート集計結果）

1 アンケートの概要

（１）対象 保護者、児童、教職員

（２）実施日 1月

（３）保護者回収率 62.6%

2 評価結果 ※ 肯定的回答は、評価4、3を合わせた値

4：よく当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまる

2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない

	質 問 項 目	肯定的回答 (保護者)
1	お子さんは、楽しく学校に通っている。	94.2%
2	学校は、学習意欲の向上と基礎学力の定着に努め、考える力や表現する力を伸ばしている。	92.7%
3	学校は、各教科や総合的な学習の時間をとおして、ふるさと学習の充実を図っている。	89.1%
4	お子さんは、授業がわかりやすいと言っている。	88.3%
5	お子さんは、家庭学習（宿題を含む）をすることが、習慣化している。	80.1%
6	お子さんは、挨拶や言葉づかいなどの基本的な生活習慣やマナーが身についている。	86.1%
7	学校は、読書の習慣化を図るための指導を適切に行っている。	86.1%
8	学校は、自己肯定感を育てながら、友達を思いやる心や、自分や仲間を大切にする指導を適切に行っている。	84.7%
9	学校は、外遊びや体育の授業などにより、運動に親しんだり、体力をつけたりする取組を行っている。	96.4%
10	学校は、望ましい食生活や健康に関わる生活習慣を実現するための指導に努めている。	88.3%
11	学校は、いじめなどの問題行動に対して、アンケートや教育相談などをとおして、早期発見・早期対応に努めている。	93.8%
12	学校は、児童一人一人の教育的ニーズに合った指導に努めている。	78.1%
13	学校は、いろいろな便りやメール、ホームページ等で、学校の様子や子どもたちの活動の様子を伝えている。	84.7%
14	学校は、保護者や学校外の機関と協力した活動を実施して、家庭や地域と連携しながら教育活動を進めている。	87.6%
15	学校は、児童の安全確保や事故防止に取り組んでいる。	92.7%

3 結果（教職員・保護者・児童）の分析と改善点

（1）学校教育目標にかかわること

100%の教職員が、学校教育目標を意識して指導にあたることができていることから、意識の高さがうかがえる。児童が学校に楽しく通っていると感じている保護者は94.2%、学校が楽しいと感じている児童は92.9%と昨年同様高い数値となっている。このことから、良好な人間関係をつくり、充実した学校生活を送ることができていると考える。しかしながら、否定的な児童、保護者ともに数名いるのも現状である。昨年度、一昨年と比べると微増している。今後、全職員で要因の分析、課題解決に向けて対応をしていき100%を目指していきたい。

積極的に学校運営に参画していることに、100%の教職員が肯定的な評価であった。引き続き、役割や立場に応じた資質・力量の向上に努め、積極的な学校運営の参画に向け一人一人のモチベーションが高まるように努めたい。

（2）本年度の重点・努力目標にかかわること

学習面において、「授業内容はよくわかる」と答えた児童は93.4%であり、昨年に引き続き高い数値を示している。教職員は、学習意欲の向上や基礎学力の定着、指導と評価の一体化を図っている項目について肯定的な回答が100%であった。校内研修を充実させ、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業や学習環境を校内で統一して行ってきた成果であると考え。また、学年に応じて校外学習や講師を招いて体験的な学習を積極的に取り入れたり、タブレットを活用したICT学習に取り組んだりしてきた。今後も、児童の思考力・判断力・表現力を深めるために、さらに、授業改善を図っていきたいと考える。

家庭学習に関しての肯定評価の割合は、保護者80.1%、児童86.3%であった。学力向上に向けた取組の一環として、家庭学習推進週間を設定し、全学年で年間を通じて進めてきた。取組の初年度ということもあり、各家庭に協力を得ながら進めてきた。次年度以降も継続して取り組み、家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図っていききたい。

読書活動については、児童の79.6%、保護者の86.1%が肯定的に捉えている。いずれも昨年度と比べると、肯定的な評価の割合は上がっている。読書活動については、学校教育目標の重点に位置づけ、年間を通じて取組を強化してきた成果と考える。主な取組として、朝読書の習慣化や秋の読書祭りの開催、図書環境の整備や図書館司書による読み聞かせ等の取組の成果と考える。しかしながら、まだ十分な成果とまでは言えない。家庭と連携を図りながら、引き続き読書の習慣化に向けた取組みを進めていく。

基本的な生活習慣やマナー、挨拶の項目について、児童・保護者ともに90%弱の肯定回答である。しっかりと身についている児童も多くいるが、そうでない児童も少なからずいる。高学年を中心に児童会の活動として、朝の昇降口やろう下で挨拶運動を行ったり、各学級で継続したあいさつ指導を行ったりしたことが一定の成果を示していると考え。今後も、校内での習慣はもちろんのこと、地域社会でも挨拶やマナーが生かされるよう指導を継続していく。

毎日朝ご飯を食べている児童は94.3%、睡眠時間を十分にとっているとした児童は91.9%で、いずれも昨年度を上回る結果となっている。養護教諭を中心とした保健

指導の成果と考える。児童の健康と成長に大きく関わる食事と睡眠については、家庭との連携がより必要となる。家庭での過ごし方も含め、連携して進める必要がある。

道徳の授業で積極的な話し合いを行っているかの回答は、91.5%の児童が肯定的に答えている。昨年度と比べおよそ5%の向上が見られた。年間を通じて、考え、議論する道徳科の学習を各学年で展開したり、保護者の参観を行ったりしている成果と考える。

体育・健康に関する項目では、児童 91.9%、保護者 96.4%と高い回答である。体育はもちろんのこと、体力向上に向けた取組みや部活動の充実した取組ができていると考える。また、休み時間においても、縄跳び板の設置や遊ぶエリアの提示など、場の設定をすることで、バスケットボールやサッカー、ドッジボール等のボール運動、鬼あそびや縄跳びなどの体づくり運動を積極的にする児童が多く見られた。運動をする機会が増えたことで、それに伴いけがをする児童も増えているので、安全対策を講じながら体力向上を図っていきたい。

一人一人の教育的ニーズに合った指導について、教職員は 100%が肯定的に捉えている。しかしながら、保護者においては 78.1%と決して高くない数値である。個に応じた指導に向け、保護者と密に連絡を取りながら同一步調で指導をしていく必要がある。

いじめに関しての項目においては、教職員 100%、児童 93.8%が早期発見・早期対応に努めていると肯定評価である。しかしながら、保護者の肯定回答は 84.7%で大きな隔たりがあることから、悩みを抱えている児童が少なからず存在することがわかる。日々の観察はもちろんのこと、毎月の学校生活アンケートの実施や早急な対応、教育相談の実施等、児童同士の人間関係トラブルを早期に把握し、早期対応に努めていきたい。これからも道徳や学校生活の場面をとおして、継続した心の教育を進めていきたいと考える。

自分の命を守るための交通安全や災害対応訓練に関わる事項では、保護者 92.7%、児童 97.2%と高い数値となった。各種避難訓練やワンポイント避難訓練の実施、地域や関係機関と連携した取組の成果といえる。引き続き、より実践的な安全指導を行っていく。

(3)保護者・地域との連携にかかわること

便りやメール、ホームページで学校での様子がわかる項目について、保護者の肯定評価は 84.7%であった。学校だよりや学年だより、ホームページ等で活動の様子を伝えるようにしたが、受け取る側としては十分でなかったようである。ホームページの更新をタイムリーかつ効果的となるよう、積極的な情報発信に努めたい。

(4)教育活動の活性化に関すること

業務改善、不祥事根絶、働き方改革、学校改善のすべての項目について、教職員の肯定評価は 100%であった。今後もよりよくするために意見や知恵を出し合い、さらなる改善に向けて取組みを進めていきたいと考える。

4 自由記述より

○安全面についてのご意見があった。児童への安全指導はもちろんのこと、保護者への

協力を呼びかけていきたい。

- 家庭学習についてのご意見が複数あった。学力向上に向けた取組みの強化に加え、自主学習や家庭学習の習慣化に向け家庭と連携を図りながら進めていきたい。
- 友達関係を心配するご意見が複数あった。定期的な学校生活アンケート、教育相談等を活用しながら、子どもたちに寄り添い、丁寧に指導できるようにしたい。
- わかりやすい授業になるよう、日々心がけ、引き続き授業改善を進めていきたい。
- 肯定的なご意見をたくさんいただき励みになる。さらに充実した教育活動を進めていきたい。

5 令和7年度に向けての改善点

- (1) 児童がより充実した学校生活を送れるよう、一人一人の活躍の場を設け、生徒指導の機能を生かした授業や学校行事等の工夫改善をしていく。
- (2) 「わかる授業」の実践に向けて、本校の課題を明確にし、校内研修を充実させ児童の思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善を図っていく。また、外部講師を招いての専門的な学習を積極的に取り入れたり、タブレットを活用した ICT 学習に取り組んだりしていく。
- (3) 家庭学習の定着に向け、便りやメール等を活用し学力向上に向けた取組みを発信し、家庭に協力を得ながら習慣化を図っていく。
- (4) 読書活動の充実に向け、朝読書の習慣化や読書祭りの開催、図書環境の整備や図書館司書の活用等、引き続き読書の習慣化に向けた取組みを進めていく。
- (5) 基本的な生活習慣やマナー、挨拶の定着に向けて、学年に応じた継続的な指導と全校共通のきまりを明確にし、全教職員が一貫性をもって指導にあたる。さらには、児童会等の機能を生かし、児童の主体的な活動のもと基本的な生活習慣や挨拶等の定着を図る。
- (6) 考え、議論する道徳科の実践に向け、道徳教育推進教師が中心となって研修を深めたり、保護者へ公開したりしながら教科横断的な道徳教育の充実を図る。
- (7) 体力向上に向け、体育主任が中心となって教科体育の指導の充実を図る。さらには、休み時間等で日常的に運動に親しむことができるよう、年間を通じて場の設定をしていく。また、健康や保健指導については、養護教諭や外部講師による指導を充実させるとともに、日常生活で生かせるよう保護者に啓発していく。
- (8) いじめ問題について、日々の児童観察はもちろんのことアンケートや教育相談から早期発見・早期対応・早期解消に努める。
- (9) 情報発信について、学校での活動を伝えられるよう、各種たよりやホームページを活用しながらタイムリーな発信に努める。